

# ゆうばり再生市民会議

新生夕張を「みんながいきいきと暮らせるまち」にするため、自分たちにできることを考えるために開催した「ゆうばり再生市民会議」。

第1回目の会議は次のような内容でした。

- 《とき》 平成19年6月22日（金） 18:00～20:00  
《ところ》 市民研修センター（夕張市清水沢宮前町）  
《参加者》 120名

## 《会議の内容》

### 1. 市長挨拶

夕張市は財政再建団体となり、財政再建のため、18年間の長い道のりの一歩を踏み出した。このような事態の中、全国からたくさんの方々から応援をいただいております、この恩を返すために我々夕張市民が自ら立ち上がり、行動を起こさなければならない。夕張市は全国でも屈指の高齢化社会であるが、高齢者が多いということは、経験、体験、知恵が豊富な人材が多いということである。この夕張市の貴重な財産を活用するために市民会議を発足し、自分は市民の仲間にならなければならないのか、何をしなければならないのかを考える場としたい。



### 2. 事例紹介 ～ コーディネーター 酪農学園大学 金子佳弘教授

この会議は、ここで何かを決定するものではなく「井戸端会議」としたい。市民それぞれ個性、能力、環境が違う中での生活であるが、これからのまちづくりに協働していかなければならない。

#### パネラー① 谷口さん

沼ノ沢、紅葉山地区で町内会や学校事業として廃品回収に携わっている。回収したアルミ缶などを圧縮し



付加価値を高め、町内会やPTAの活動費の一部として活用している。また、この活動は、ゴミが減り、活動資金となり、地域の交流が生まれる事業である。

#### パネラー② 鈴木さん

現在は、子ども17名、大人15名での会で、20年以上の歴史を持っている。夕張市はかつてより下の匂カルタが盛んな土地であり、平成17年には全道大会に出場した。現在のメンバーは、本町・末広地区で構成されているが他地区の子どもや大人にも参加してもらいたい。

#### パネラー③ 園さん

6月末に開催される音楽イベントで市内宿泊希望者へのホームステイ先を紹介することを目的に設立。市内各施設を廻りホームステイ先を募集し、登録26件70名分の宿泊先を確保した。現在は15件26名がホームステイを申し込んでいる。宿泊客へのおもてなしなどを各家庭で検討してもらっている。

### 3. 事例発表を受けての意見（市民より）

夕張市民の心の温かさを感じた。再生は生活の過程となるように皆で考え、助け合っ  
て自立の道を歩むことであると感じた。

### 4. 金子教授のコメント

谷口さんの活動は産業の原点モデル、鈴木さんは世代間交流の原点モデル、園さんは観光の原点モデルである。北海道は、成立の性質上官依存体質になりがちであるが、仕事が生まれ、社会に認められて初めてビジネスチャンスとなるものである。



### 5. 金子教授からパネラーへの質問

市民活動を始めてから、生活リズムなど身の回りで起きた変化は？

- ・子どもが自分の意見を出せるようになった。
- ・自由な時間を有効に使うことの楽しさを知った。
- ・他人への気配りがよりできるようになった。
- ・家庭環境が良くなった。
- ・自分たちが夕張に住んでいて良かったと思えるまちづくりの必要性を感じた。

## 6. 会場からの意見

- ・（自分が実践している市民活動で）批判を受けたこともあったが、夕張のためという思いで続けて良かったと思う。
- ・夕張から全国に散らばった仲間たちに夕張のことで寂しい思いをさせたくない。
- ・市民のため、まちのためという思いで市民活動に取り組む必要性を感じた。
- ・市議会と同等にものが言える活動にしてもらいたい。
- ・地区ごとの活動に知らないことが多いと気付いた。活動のネットワーク作りの必要性を感じた。
- ・地域の安全は地域が守るという思いで、安心・安全なまちづくりボランティア活動の拡充が必要と感じた。
- ・地域再生を考えた場合、たとえばゴミ問題であっても、ゴミにするか？資源にするか？を考える必要がある。
- ・映画祭に参加する市民は少ない。是非参加してもらいたい。
- ・自分でも何かできると思っている市民は多い。行政の下請けではなく、自分たちに何ができるか、何かをしたいと思っている仲間と再生という目的に向かい一つ一つ解決していける会議づくりが必要と感じた。



## 7. 金子教授よりまとめ

夕張は空港や大都市から近く、他ではなかなかない地理条件である。夕張市全体「石炭の歴史村」である。今日の会議は夕張市再生の前段階として、コミュニティの再生のきっかけとなる会議である。今日が始まりであり、第一歩である。コミュニティの中でそれぞれ自分の役割を考えて欲しい。